

編 集 後 記

医師の卒後臨床研修の必須化が始まってから5年以上の時間が経過した。この制度のアイデア自体はそう悪いものではなかったが、制度構築の場に心理学に詳しい方がおられなかったに違いないと思われる。初期研修先の選択時に完全な自由選択性に慣れた医師は、より自由を求めてフローティングし続けているように思える。自由を求めるため医師会には入らず、学会にも所属しない。もちろん大学の医局（今は死語となってしまったが）にも所属しない。厚生労働省も文部科学省も医師の生涯教育を制度化していないため、法律で生涯教育が決められているわけでもない。このような医師が最新の医学情報に接する場、生涯教育を受ける場はどこになるのだろうか？このように考えた時に、最新でかつ中立な情報が提供され、誰でもいつでもアクセスできるものは医学雑誌であろうと考えられる。今後は、原著論文とともに、症例報告や教育的総説を掲載する医学雑誌の医師の生涯教育における役割は、もっともっと大きくなっていくものと考えられる。島根医学は島根県医師会の編集、出版する医学雑誌であるが、医師会員以外の多くの医師にも読まれている。今月号にも2編の教育的総説を私共の大学の2人の実力派教授が書いておられる。原著もバラエティーに富んでおり、島根県の医学、医療レベルの高さを感じさせる。ぜひ、多くの先生方に本誌をすみからすみまで読んでいただき、楽しんでいただきたい。

(島根大学第2内科 木下 芳一)

島根医学編集委員

岩本正敬，貴谷 光， 齋 公平， 児玉和夫， 葛尾信弘，
森本紀彦，浅野博雄，木下芳一，佐藤比登美，井川幹夫，
中山健吾，徳島 武

島 根 医 学

平成24年12月31日発行

発行者 島 根 県 医 師 会
益田市乙吉町
編 集 編集者 岩 本 正 敬
発行所 松江市学園南2丁目3番11号
有限会社 松 陽 印 刷 所